２０１４年３月号・季刊４４号

ミンダナオの風

発行：ミンダナオ子ども図書館

避難民の状況を調査していると、
遙か彼方の湿原地帯から
煙がもくもくと上っているではないか。
「軍が退去した後、
反政府勢力が、腹いせに、
滞在した家に放火して焼いている！」
戦闘がないときには、
ＭＣＬの舟で通る、湿原の川の対岸
ダトゥ・ピアン側の集落から、
もくもくと煙が上がり、
かなり離れてはいる物の、
突然向こうから、

パン　パパン　パン
銃声が響いてきた。
案内してくれた村人が慌てた様子で叫んだ。
「早く逃げよう！」
「こんなに遠くても、
ＢＩＦＦ反政府勢力の武器は高性能で、
ここまで照準を合わせられるんだ！」

その後、ＭＣＬの奨学生たちと、
再度現地を訪れて、
避難が半年以上にわたっている
戦闘地に近い困難な集落で
読み聞かせを行い、
衣料の支援をし、
最も不安定でかわいそうな集落には、
保育所の建設も約束した

Mindano Children's Libary Foundation, Inc.
MCL
SEC REG.NO.CN200315083

奨学金値上げのお願い！

ミンダナオ子ども図書館も、設立十一年目に入りました。

さすがに十一年たつと、様々な情勢の変化が見られます。平和への機運も盛り上がりましたが、新たな戦闘がはじまり冷水を浴びせています。

経済情勢で最も激しいのが物価高です。フィリピン経済は好調だという指標がマスコミには流されているようですが、一部の金持ちがさらに裕福になっただけで、貧困層は物価高のあおりを受けて、さらに厳しい状態に落ちこんでいます。

学費の値上げも毎年激しく、特に大学の学費は、10年前のほぼ二倍で、地方都市キダパワンの大学でも、年間6万円では、とても学校に行けません。

さらに為替レートの円安も加わって、このままではとても、子どもたちを大学までやらせられなくなってきました。水田などで、自給率を上げるなどの努力をしているのですが、・・・

MCLの奨学金は、学費だけでは無く、文具から、生活費まで支給しています。申し訳ありません、年間大学生7万円、小学生4万円に値上げさせてください。無理な方は、前の通りで継続されてください。お願いします！

和平構築の最終局面に入ったか

松居友

新年にはいり、レイテ台風支援に対する準備をはじめたが、それ以上に、イスラム地域で戦闘が起こり、広範囲ではないものの避難民が続出した。

レイテ台風支援の方は、日本からの支援物資が大量に届くであろう、2月末に設定し、急きょ戦闘難民救済支援に向かった。

戦闘発生に関する表向きの報道からは、以下の流れが明確になる。

去年の末に、MILF（モロイスラム解放戦線）とフィリピン政府のアキノ政権が、和平構築の合意に向けてのサインをした。

これで、少しは平和への道が開けてくるかと思いきや、心配したとおり、和平合意に反対する勢力が、戦闘を起こした。

去年前半には、MNLF（モロ民族解放戦線）が、MCL（ミンダナオ子ども図書館）のあるキダパワン市から近い隣のマタラムで戦闘を起こし、MCLで難民救済に向かったが、その後、ザンボアンガで大規模な戦闘を起こし多量の難民が出た。

このことは、日本でも報道されたが、政府軍に制圧された。

湿原地帯から避難してきた人々

こうした一連の動きに関する背景は、前回の記事で分析し書いたが、簡単に流れを復唱すると、次のようになる。

MNLFは、最も初期にイスラム地域の独立を求めて結成されたモロ民族解放戦線と呼ばれる反政府組織だったが、イスラム自治区ARMMの設立で政府と妥協したとして、不満分子を中心に分派が形成され、MILFモロイスラム解放戦線が生まれた。

2006年以降の和平交渉は、政府とMILFとの間で進み、IMT国際停戦監視団がマレーシア、インドネシア、日本なども含めて形成され、昨年末のアキノ政権との和平交渉調印にまでこぎつけた。

しかし、MILFと政府との和平交渉に不満な動きが発生し、MILFから分離したイスラム教徒たちが、BIFF（バンサモロ・イスラム自由戦士）を結成し、ピキットを中心として戦闘を開始、昨年からたびたび国軍が入り難民が出た。難民は現在も半年以上にわたって避難生活を余儀なくされている。さらに今年に入り、BIFFにMNLFが合流する形で戦闘が勃発し、拡大が懸念されている。

ただし、和平に不満な勢力は、イスラム内部にだけあるのでは無いという

郵便振替口座番号　００１００　０　１８０５７
加入者名　『ミンダナオ子ども図書館』
購読料程度の自由寄付でも結構です。よろしくお願いします。

事を知っておいた方が良いだろう。

多くのクリスチャン勢力も先住民の中にも、ミンダナオをイスラム勢力がコントロールすることに不安を持ったり、良としない人々も多いという事実だ。

そういう勢力が、カトリックもプロテスタントも、クリスチャンでありながら、第3国を経由して背後から、反政府勢力を支援して、戦闘を起こすことも大いにある。

ちょうどシリアにおいて、アメリカやEUが、イスラム反政府勢力を支援したように・・・。ちなみに、アジアのイスラム教徒は、スンニ派が主流だが、BIFFは、シーア派が多いと聞いている。

中近東の情勢を見るとミンダナオ情勢の参考になる？

遠方では、国軍とBIFFの戦闘が続いている

MCLは、即座に避難民救済活動を開始。

戦闘は、MCLの奨学生が多いピキット、リグアサン湿原地域、ARMM地域で起こり、新年早々、MCLで避難民救済に向かった。

場所によっては、国際停戦監視団や国連、NGOも視察に来ていたが、MCLでは、まず緊急のビニールシートを切って渡し、さらに古着などの支援を継続した。

舟で湿原地帯から避難してきた人々

（皆さんからのレイテ台風支援の物資の一部を、了解を得て、戦闘難民支援にまわしました。ありがとうございました。）

湿原地帯の村々から逃げてきた人々は、MCLの事をよく知ってくれて、大喜びで迎えてくれた。というのも、現在は戦闘が起こって入れないリグアサン湿原地帯の彼らの集落にも、わたしたちは日頃から、読み聞かせに訪れたり、医療や奨学生を採用したりして、学用品を届けているから。

今回の救済支援も、日頃からのお付き合いの延長で、知っている村の人々が困難であれば、放っておくことが出来ないから、救済に向かっただけの事なので、現地ではNGOとも呼ばれているものの、私たちは自分たちをNGOとも国際支援団体とも感じていない。近所つきあいの延長線のような感じ・・・？

さっそく雨よけのシートを配った

しかし、実地に歩いて、避難民の状況を調査していると、遙か彼方の湿原地帯から煙がもくもくと上っているではないか。

「軍が退去した後、反政府勢力が、腹いせに、滞在した家に放火して焼いている！」

戦闘がないときには、MCLの舟で通る湿原の川の、さらに対岸のダトゥ・ピアン側の集落から、もくもくと煙が上がり、かなり離れてはいる物の、突

（インターネットバンキングも可能です）■銀行名　ゆうちょ銀行　■金融機関コード　9900
■店番　019　■預金種目　当座　■店名　〇一九 店（ゼロイチキユウ店）　■口座番号　0018057

然向こうから、
パン　パパン　パン
銃声が響いてきた。
案内してくれた村人が慌てた様子で叫んだ。
「早く逃げよう！」
「こんなに遠くても、ＢＩＦＦの武器は高性能で、ここまで照準を合わせられるんだ！」

その後、ＭＣＬの奨学生たちと、再度現地を訪れて、避難が半年以上にわたっている戦闘地に近い困難な集落で読み聞かせを行い、衣料の支援をし、最も不安定でかわいそうな集落には、保育所の建設も約束した。

避難民も、集落の人々も大喜び。

読み聞かせの効果は、子どもたちが大喜びすること。それによって、落ちこんでいた親や村人に笑顔がもどること。

さらに保育所を約束することで、未来への希望が見えてくる。

せっかく和平交渉が確立し、平和への足がかりが見えてきているのに、なぜ、和平を内側から覆すような内部分裂がおこるのだろう！

皆さん方の中にも、そのような疑問を持つ方々が多いだろう。

ＭＩＬＦは、ＭＮＬＦから分離した一派だが、ＢＩＦＦは、ＭＩＬＦから分離した一派で、現在、ＭＮＬＦはＢＩＦＦと合流して新たな戦闘を起こす準備を進めているという。

MCLで渡したシートの下で

アジアのイスラム教徒は、おもにスンニ派だが、ＢＩＦＦはシーア派でイランやシリア等との結びつきも深いという。この辺から見ると、世界情勢の構図の中に、ミンダナオも含まれていることが少しずつ見えてくるだろう。

結局これは、どの勢力が、現地の天然ガスと油田の資源の開発権利を持つかという、きわめて現実的で生々しい問題であるとも解釈され、ＭＮＬＦは、すでに持っていた利権をＭＩＬＦに渡したくないし、ＢＩＦＦは、自分たちで管理したいということだろうが、その背後に、海外を含めた「見えざる第三者の力」が働いていると考えた方が良い。

そう思考するとしたら、何が見えてくるだろうか。そうした視点から、いくつかの素朴な疑問を提示してみよう。

（疑問だけ提示するので、皆さんで考えてみてくださいね。）

戦闘には、お金がかかる。

戦闘を起こすにも、武器を買ったり兵士の給与を支給するための経費はどこから出るのだろう？

現地の一般の人々は、たとえ反政府組織と言われていても、武器を購入するだけの経済力が無いのは当然で、武器製造会社から武器を購入する資金が無ければ、大規模な戦争を起こすことは不可能。

それならば、資金はどこから出るのだろう？

例えば日本が軍国化して、国民皆兵とするならば、武器を買うのは国家であり、国家が私たちの税金を使って、武器を製造している国の会社から購入し、その武器をただで軍人化した市民に渡し、給与も出して戦地に送り込むわけだ。

フィリピン国軍の武器と給与は、市

民の税金から支払われているが、しかし、反政府勢力の場合は、購入するだけの経済力もないのに、どこからお金が落ちてくるのだろう？

現地から聞こえてくる声。

「議員の一部が、架空のＮＧＯを作り、そこを通して国税の一部を流し、それが反政府組織にも届いている。」

国税の一部が横流しされて、反政府勢力に流れ、政府軍との戦闘に利用されているというのだ。

この点は、去年大きな政治問題となり、アキノ政権は、ＮＧＯを厳しく制御しようとしている。

法人登録も、１０年前の４０万円ぐらいから、２００万円に突然上がった。

監視や規制も非常に厳しくなった。その背後には、簡単にＮＧＯを作らせないという政府の思惑が見える。

現地では、以前から、ＮＧＯというと、金儲けの手段と見られている部分も強く、特に政府や政治家と関連しているＮＧＯに関しては、多くの人々が不信感を持っていたが、いよいよ規制が厳しくなってきた。

ＭＣＬは、金儲けのための架空ＮＧＯでもないし、不正を意図的に行っていないので問題は無いが、全てのＮＧＯが調査の対象となり、銀行の預金を始め全てのお金の動きの提出を求められたので、すぐに提出し、完了した。

「ＭＣＬは、本当に人々を助けるＮＧＯですね。」と良く言われるが、その言葉の背後には、人々のＮＧＯに対する根強い不信感がある。

しかし、私たちは、自分たちをＮＧＯともＮＰＯとも思っていない。

子どもたちを救済し支援するためには、法人資格がないと出来ないと言われて、当時の高校生の若者たちが、自主的にとったものだ。

子どもたちへの愛、それがＭＣＬ。

さらに、こんな言葉も聞こえてくるが、ホントかどうかは別にして、背後の解釈も皆さんにお任せしよう。

「武器は、海外から届いている。中には、国軍ですら持っていない高性能の武器もあるよ。」

「最近は、中国製が米国製よりも性能が良い。いちぶ、日本製のピストルもマレーシアから流れてくるよ。」

「フィリピン国軍の中古の武器も、反政府勢力に売られているよ。」

世界的な反政府勢力に落ちるお金は、どこからくるのか。

反政府組織自体がそんな大金をもっているわけもなく、地方有力者としても、私兵に武器を渡して、小規模な戦闘を選挙時に起こすのがせいぜいで、巨大な戦争を起こす力は毛頭無い。

病気を治してあげた、MCLの小学生に会った

結局、戦争を起こし、鉱物資源や農業資源を獲得する可能性がある、国内資本や国際資本が、国内や第三国、さらに先進国の政治とからんで、反政府勢力を支援し戦争を勃発させて、儲ける仕組を作ろうとしているようにも見えてくる？

勝手な空想にすぎないが、先進国の税の一部が、支援名目で第三国に流されて、政治家などから架空ＮＧＯを通して反政府勢力に流れ、武器購入資金として使われて、そこから政府軍との戦闘に利用されていたらどうだろう。

戦闘に勝利を収めたとして、その後の石油利権はどこに行くのか。開発は、どこの国のどこの企業が担当するのだろう。

政府側にも、反政府側にも、武器や資金を提供していれば、どっちに転んでも痛くない。

どうでも良いけど、貧困が無く、宗教的な争いも無く、子どもたちが幸せに育つことが出来る、ミンダナオ子ども図書館のような世界を作って欲しい。

メール：mcl.v.staff@gmail.com（現地日本人スタッフ）
電話番号：080-4423-2998（日本国内から現地に転送・松居友）
09219603640（現地携帯電話・松居友）
mcltomo@yahoo.co.jp（松居友へメール）

レイテ台風支援・その二

2月26日から3月1日まで、レイテ台風支援に向かった。

日本の心ある方々が送ってくださった、支援物資をトラックに満杯に詰めこんで、現地に向かった。

運転を交代しながら、目的の村に着いたのは、翌々日の午前3時。前回、11月の支援の時に比べると、折れた椰子の木の梢から芽が吹き出してきていたり、自然の緑の回復力が目立った。

最も大きな変化は、ビニールシートを受け取って、とりあえず屋根を作って人々が住み、生活が曲がりなりにも始まったように見えることだろう。

前回、最も必要とされている物はビニールシートだと書いたが、その後、12月に入って、海外からのビニールシートの支援が入り、人々の生活も次第に復活してきたのがわかる。特に、UNHCRのシートが目立ち、かなり奥まで丁寧に手渡しているのが見えた。もうひとつ目を引いたのは、台湾、中華民国の支援で、学校に避難所と教室をかねた簡易宿泊施設を作っていた。

今回は山の人々を対象にした

こちらでは、日本の東北のように寒くは無いので、宿泊施設やテントよりも、雨をよけられる程度のビニールシートのほうが重宝されるが、台湾の支援は、単に一時的な宿泊施設を提供するばかりでは無く、避難者がもどったあとも、屋根の吹き飛んだ学校で授業が出来なくなった子どもたちのための教室として機能していた。

MCLでは　低地の国道に近い場所は、普通のトラックも入ることが出来るし、支援はほぼ一巡し、日々の生活が次第にもどっている感じもしたので、今回は、四輪駆動車しか入れないような山岳地の貧しい集落にターゲットを絞って行った。こうした村々の人々は、一家族の抱えている子どもの数も多く、子供服や子供靴、鍋や釜やお皿などの、生活必需品に困っている事が多いので、今回皆さんから送られた物資を心から喜んでくれた。

さらに、読み聞かせに、子どもたちが喜ぶ姿を見て、親たちも満面笑顔になり、最後に、炊き出しのご飯をわたした。支援の大切さは、必要な物を届けると同時に、心の交流を通して、沈んだ雰囲気を打ち破って、友情を広げていくことだと、つくづく感じた。

皆さんから届いた古着は、MCLの子どもたちが、徹夜でビニール袋に詰めこんだ。一袋に子供用と大人用の衣服を10着つめこみ、1000袋作り、一家族に一袋ずつわたした。

ビニールシートの下で生活がはじまった

帰りに、もっとも被害の大きかったタクロバン市の海岸沿いを見たが、この状況は決して良くない。ビニールシートなど、渡ってきている物の、収入のある家と、貧しい家との格差が急激に広がっている。多少なりとも収入のある家は、家の建て直しなどを、少しづつでも始めているが、極貧の家は、次第に劣化していくシートの下で、あいかわらず途方にくれて暮らしている。犯罪も多くなっているという。

次回は、6月に、こうした町の海岸に近い、スラム地域を中心に衣料と炊き出しと、読み語りの支援をすることに決めた。

町の状況は今も厳しい。

服をもらって大喜び

（インターネットバンキングも可能です）■銀行名　ゆうちょ銀行　■金融機関コード　9900
■店番　019　■預金種目　当座　■店名　〇一九 店（ゼロイチキユウ店）　■口座番号　0018057

Ritual Ceremonya

ボランティアスタッフ　野田　杉菜

「明日キアタウで焼畑にお米の種を植える、年に一度の儀式があるので行きませんか？」

2014年2月18日早朝、友さんの一言で寝ぼけ眼を擦りつつ、急遽キアタウ村へお米を植える儀式を見に行った。

マノボ族の調査をしておられる訪問者の方と現地スタッフと共に、舗装されていない山道をガタゴトと進んでゆく。

下は、今回の調査の中心、増田和彦氏、焼き畑研究の専門家だ！

バナナのプランテーションを通り過ぎ、急斜面にあるトウモロコシ畑を横切りると、アラカンの広大な山岳地帯が広がった。3時間かけてたどり着いたのは皆様お馴染み、ミンダナオの山岳地帯に隠れるように存在するキアタウ村だ。MCLはこの村からもスカラーをたくさん採用している。

キアタウ村に着くと「明日はご馳走でバボイ（豚）が出るよ！」と子ども達が嬉しそう話しかけてきた。普段はカサバ芋やバナナを蒸したものを食べているので、豚はとっておきのご馳走なのである。

マノボ族がほとんどのこの村は、昔ながらの伝統が生きている。今回の儀式、その名も「リトワル・セレモニア」。題名に記したものが現地語だ。年に一度の伝統行事で、友さんも見たことが無いと言っていた。

そんなところに無知な私がお邪魔して、素人の目線で貴重な文化に触れることを可能にするところ、MCL。

私の見たマノボの儀式の様子を読むことで、隣国の風に触れていただければ！…と、偉そうなことを言ってみたり。しばしお付き合い頂ければ幸いである。

急斜面を駆ける

2月19日、早朝6時。山の人々の朝は早い。

早々に朝食を済まし、焼畑のある場所まで歩いて行く。キアタウの子どもたちに先導され、まだ朝露で滑る斜面を下っていく。

朝焼けで光る断崖絶壁の丘を下り、まだ小さなバナナの生える畑を下ると、木々が生い茂る森へ行き当たる。

キアタウの子どもたちは転げるように急斜面を走り下ってゆく。そのスピードといったら大人はとてもついて行けない。よたよたと進む私たちを時々チラチラと見て、少し行ったところで待っていてくれる。

急斜面を下るのに必死な私たちを尻目に、子どもたちは焼畑までの道のりを遊びながら進んで行く。パチンコにそこらへんの石ころを掴んで鳥を射ち落とそうとしたり、鳥の鳴き真似をしたり、歌を大声で歌ったり…そこにある物を何でも遊びに変えてしまう。

川でお風呂

どんどんと森を下っていくと川の近くにたき木の火が見え、村の男衆がそこに集まっていた。

その手前の急斜面で私は一回転して転げ落ちた。幸い擦り傷だけで済んだが、これがさっきまでの何も生えていない断崖絶壁だったら死んでいたと思うと肝が冷えた。

泥だらけになって川のそばまで辿り着くと、透き通った水が流れるそばで、大きな豚一匹が既に解体され横たわっていた。ここまで豚を連れてきて潰したのだろうか…近くの大きな岩には真

村人たちと水浴しているボランティアスタッフの杉菜さん

郵便振替口座番号　００１００　０　１８０５７
加入者名　『ミンダナオ子ども図書館』
購読料程度の自由寄付でも結構です。よろしくお願いします。

新しい血の痕が残っていた。

すぐに出発するかと思いきや、後からやって来た女衆と子どもたちが川で水浴びを始める。「杉菜も入りな！」と誘われるので、私も川で頭を洗った。山で生活する人々にとって水は貴重品だ。そんな水を好きなだけ使うことのできる川でのお風呂は「待ってました！」と云わんばかりの張りきり具合である。大人もしかり。

“焼畑へ”

思う存分身体を洗った後、やっと焼畑へと向かいだす。

男衆は豚や薪を持ち、女衆と子どもはそれに続いて急斜面を登っていく。木の根をつたい、竹のゲートをくぐると、焼かれた土が見え始めた。

森を抜けたところ、急斜面に扇状に広がる広大な焼畑が現れた。テニスコート優に6個分はある。あまりの広さに「何日かかって焼いたの？」と聞くと、「1日だよ。村の大きい男64人全員で焼いたんだ」と返ってきた。

こっちの人は度々、人数にものをいわせて途方も無い作業をやりこなしてしまう。その忍耐とやら凄まじいといつも思う。

続々と集まる村の人々は、一度焼畑の傍に建てられた小屋に集まる。そこで衣装や道具を纏い、ダトゥ達（酋長）が集まると、儀式の用意がされている焼畑の下部に下りていき、そこで儀式が始まった。

生け贄の白い鶏を捧げる

“白いにわとり”

コの字に集まり内側にダトゥと男衆、その外側に女衆と子どもが並んでいた。

最初にダトゥが神様（スピリット）に呼びかける。良いスピリットをカヤッグと呼び、畑が良いスピリットに見守ってもらえるように呼びかけるのだ。

次にマノック（にわとり）を捧げる。マノボ族の伝統で儀式の際は、スピリットに必ず白いにわとりを捧げるしきたりになっている。

マノックは祈りを捧げた後、動脈を切りその血を後から蒔くバンゲ（種もみ）やその他の儀式の道具に垂らしていく。これは悪い虫や鳥に、蒔いた種が狙われないようにするおまじないである。

次に、種まきに参加する全員がマノックの血を手の平につけてもらいに来る。その後、女衆はトードソック（バンゲを入れるかご）にバンゲを入れてもらい、男衆は竹や木の槍で一斉に土に穴を開け始めた。

穴を開ける様子は舞を舞っているようだし、種を蒔く姿もとてもリズミカルだ。種を蒔いたあとは素足で踏んで土を被せていた。穴を開ける道具で竹の棒をパガパックと呼び、それを振り下ろすたびカラカラと音が鳴る仕組みだ。単調な農作業に楽しさを見出そうとしているようで、小さな工夫に笑みがこぼれた。

“ご馳走にありつくまで”

大人が儀式を行っている間、大きい

マノボ族の民族衣装を着た婦人たち

（インターネットバンキングも可能です）■銀行名　ゆうちょ銀行　■金融機関コード　9900
■店番　019　■預金種目　当座　■店名　〇一九 店（ゼロイチキユウ店）　■口座番号　0018057

子どもたちはお昼ご飯の準備をしていた。

かまど作りやバボイをさばく作業など、力仕事は男の子が。バナナの皮でお皿を作ったり、小さい子の子守、おかずの盛り付けなどは女の子が行っていた。それより小さい子どもたちは儀式の様子を高台からじっと見ていた。焼畑なので、時折風に吹かれて灰が舞う。目を擦る姿がとても愛らしいと感じた。

太陽が真上まで昇った頃に一度作業を辞め、全員でお昼ご飯の準備に取り掛かる。日本の様に、すでに切り分けられた肉は出てこない。大きなお鍋でマノックを煮たり、バボイの骨は男衆が力いっぱい包丁を振りかざし、肉片を飛ばしながら切り分けていく。

みんな朝ごはんを食べずに準備や農作業をしているので、お腹はぺこぺこのはずなのに、みんながご馳走を食べれるように準備に没頭しているようだった。

ミンダナオに居ると、“動物の肉をいただく”ということがリアルに感じられる。こちらの人々はご飯を食べる前に必ず祈りを捧げる。命を頂くことに関してのリアルを知っているだけに、頂く命には常に敬意をはらうことを忘れない。これはミンダナオで守っていくべき極めて大切な文化じゃないかと勝手に思っていたりする。

ようやくご飯を食べ出し、ご馳走に舌鼓をうつ。おしゃべりに花を咲かせ、お昼寝をし、また種蒔きを繰り返す。

作業は夕方まで続き、帰りは馬に乗せてもらい村まで帰った。今回蒔いたお米は7月に収穫予定だ。キアタウ村の人々が無事にお米を食べることができるよう、私もひっそりとカヤッグにお祈りした。

“ダトゥのお家にて”

儀式が無事に済んだ夜、キアタウ村のダトゥの家に泊まらせてもらった。そこでダトゥとたくさんお話した中で

アイヌ文化や神道とも深くつながっている祈り

印象的なものがある。

あるスタッフの奥さんがグワパ（美人）だという話をしている時、ふとダトゥが「グワパ（美人）とパンギット（不細工）、何が違うんだい？一緒だろ？」と呟いた。続けて「一番大事なのは心だ。違うかい？」と付け加えた。

一瞬キョトンとしてしまったが、「あ

踊りながら、陸稲を植えていく村人たち

あ、そうかも…」となぜかすんなり腑に落ちた気がした。

よくミンダナオの人は「目に見えないもの、心が一番大事」と言う。それはそうだが、私にも好みがある！と反発する心があった。

しかし、こちらで他人の本心を見抜くことは日本より難しいことだと、7ヶ月間の短い滞在期間だがわかる。表面上ではホスピタリティー溢れるフィリピン人だが、決して簡単に心の内には入れてくれないのが現実だ。

それでも彼らと向き合っていこうと思うのはなぜなんだろう…一生答えが出なくても良いが、その周りをよたよたとキアタウの急斜面を歩くように廻り続けていくことに意義があるんだと、自分に言い聞かせている。

あとの4ヶ月、私はこれからもよたよたと近寄ったり、離れたり、歩いてゆく。

日々の活動を、豊富な写真で、随時更新報告しているＭＣＬのサイト
http://home.att.ne.jp/grape/MindanaoCL/mindanews.htm
ウエッブサイト検索『ミンダナオ子ども図書館』、必見です！

They always be in my heart.

立命館アジア太平洋大学 1年
秀島　彩女

私が MCL に行きたいと思った理由、それは単純に子どもが好きだから。

MCL に着いたとたん、想像以上の子ども達の明るい笑顔と friendly さで迎えられ驚きと嬉しさでいっぱいで、疲れが吹き飛んでしまった。

日々の子ども達との生活は、何もかも新鮮で、私が忘れていた事の多くを思い出させた。TV もゲームもないけれど、庭で駆け回ったり、歌ったり踊ったり、絵を描いたり本を読んだり、子ども達は、生き生きとしていて常に笑顔がたえなかった。

その笑顔は、私を毎日幸せな気持ちにさせ、子どもたちの輝く笑顔は、悲しいことや辛いことを忘れさせる力があること、笑顔の素晴らしさを感じさせた。笑顔は、人を幸せな気持ちにさせ、自分をも強く幸せにすることができる、と子ども達から学んだ。

MCL の子ども達は親がいない、家庭崩壊、虐待、経済困難一人一人辛い過去がある子達だ。だけどそんなことは、あの子たちと過ごしていると全くわからない。

子ども達は、彼らにしかない優しさ、思いやりの心、素直さ、きらきらと輝く笑顔を持って毎日ほんとに強く生きている。私自身、MCL で子ども達と過ごして、考え方が大きく変わった。

まず早寝早起き、規則正しい生活を送ること、3食食べれることのありがたみを実感した。3食のごはん、水、トイレ、寝る場所、そしてあの子ども達の笑顔さえあれば十分幸せで満足した生活を送れることがわかった。

今まで自分が、どれだけ無駄な生活をして、無駄な物にお金と労力を使っていたの反省というより、とてもばからしく感じた。化粧や、たくさん洋服や靴を買ったり、何のためにそんな着飾る必要があるのか、大事なことは表面的なものではなく心から人と人が関わって繋がっていくことであると、改めて深く感じた。

日本に帰った今、私は生活習慣を見直して早寝早起きをし、食事の前には子どもたちから教わった感謝の言葉を言って、1食1食をありがたく頂いている。そして、こんな多くの素敵な思い出と、学びをくれた子ども達をできることなら側でずっと寄り添ってあの笑顔を見ていたい、守りたいと思うのだが、今、私にできることは、少しでも多くの人に自分が体験したこと、MCL のことを伝えて、支援者を増やすこと、そして、自分ができる範囲で寄付や募金活動をすることであると考え、さっそく行動に移している。

自分の細やかな行動が、少しでも支えになるのなら、あの子ども達の笑顔を守ることができるなら、私は、あの子達にたくさん、ありがとうの気持ちを返していこうと思う。

この旅の中の4日間、私は、レイテ島へ台風被害の支援物資の配給にも、同行させて頂いたが、これもまた非常に忘れられない体験となった。

出発前から、MCL に残るこども達と、遅くまで配給する衣類の仕分けをしたが、自分のためだけではなく、人のためにも一生懸命全力で頑張る子ども達は、ほんとに素敵だ。

被災地は、東北大震災と似ていて家がぼろぼろと崩れ、跡形だけが残っていたり、建物の組みの部分だけ残っていたり、ヤシの木が途中で折れるほど、台風の被害は酷かったことを知った。

人々にとって、衣類やタオルといった日用品は、すごく貴重なものであるらしく皆とても嬉しそうに、サラマー(thank you)っと何度も言って受け取っていた。

被災地の子ども達にとって、古着の靴一足がすごく貴重で、本当に嬉しそうで、私自身現地の人達からありがとうと言われたり、子どもが靴をもらった時の笑顔を見て嬉しい気持ちになった。現地で時々見かけた NEVER GIVE UP の文字、東北の人々と同じようにここ Philippine でも復興に向けて踏ん張っている人がたくさんいた。

今回私は、一人一人の些細な思いやりが大きな助けになること、私にもまだまだできることがあることを知れた良い旅となった。

MCL に行って、子ども達や友さんスタッフのみなさんに出会えたおかげで私のこれからのビジョンをはっきりとさせることができた。

これからビサヤ語も勉強して、次に行くときには、子ども達一人一人にもっと深く関わっていきたいと思う。

それまで私はあの子たちの笑顔を胸に日々頑張っていく。

最高の出会いに感謝して。

メール：mcl.v.staff@gmail.com（現地日本人スタッフ）
電話番号：080-4423-2998（日本国内から現地に転送・松居友）
09219603640（現地携帯電話・松居友）
mcltomo@yahoo.co.jp（松居友へメール）

『ミンダナオ子ども図書館日本応援窓口』（略称：MCL 応援窓口）が出来た！

MCL の活動をわかりやすくお伝えすること、現地法人、および日本事務局のサポートをすること
全国の支援者のみなさんのつながりの場をつくることを目的に立ち上げました。

日本応援窓口の活動・講演会について

MCL 設立者の松居友（とも）さんは、毎年日本に帰国し、各地で講演会や活動報告会を行っています。
２０１４年からは５月および１０・１１月と、年２回帰国し、日本応援窓口が講演会等の「受付」、「開催ご相談」、「日程調整」を担当することになりました。随時松居さんと連絡を取り合いながら進めていきます。
日本窓口のスタッフや現地を訪問された支援者も、報告会、映像ドキュメンタリー上映会を行わせていただきます。ご希望をお寄せください。
講演会の空いている日程に関しては、
サイト「ミンダナオ子ども図書館日本応援窓口」http://mcl-japan.jimdo.com/ の「講演会日程」で確認できます。
申し込みや連絡は、メールで、mcl.madoguchi@gmail.com
松居友に直接連絡くださる場合は、mcltomo@yahoo.co.jp にお願いします。

初めまして。　　2014 年 2 月 10 日
みなさま　こんにちは。ミンダナオ子ども図書館日本応援窓口です。
ホームページ開設以来、すこしづつご覧いただく方が増えて　嬉しい限りです。http://mcl-japan.jimdo.com/
ミンダナオこども図書館って知らなかった、というかたには MCL の概要を少しお伝えすることが出来ているでしょうか？サイトの運営や事務手続きは、おもに奈良県生駒市在住の 5 名が担当していますが、頼もしいことに、東京や岐阜でも応援窓口支部を作ろうという動きも出ています。
点が線に、線が面にと、応援が広がっていくとよいですね。
今月も MCL には　訪問の方が何組か行かれています。その活動や、感想なども掲載できたらと思っています。
現地は　２月和平を前にして再び戦闘が頻発している様子ですが、子ども達の明るさにみならって、ヒナイヒナイで応援を続けていきましょう。

母・松居身紀子さんの個展が、銀座でひらかれます。
松居友さんも、11（金），12（土），13（日）と画廊にいます。

日時！――４月４日～４月 17 日・ 11:00 ～ 19:00
〈日曜日のみ 13:00f19:00 ／最終日は 18:00 まで〉
場所！――銀座 教文館 9F ウェンライトホール
交通― JR 有楽町下車徒歩 10 分　地下鉄出口―銀座駅…銀座線 A9,
日比谷線 A9, 丸の内線 C8
104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1　9F ウェンライトホール
TEL ― 03-3561-0003
連絡先（自宅）― 168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-15-12　松居身紀子
TEL ― 03-3332-2534　FAX ― 03-3333-9858

メール：mcl.v.staff@gmail.com（現地日本人スタッフ）
電話番号：080-4423-2998（日本国内から現地に転送・松居友）
09219603640（現地携帯電話・松居友）
mcltomo@yahoo.co.jp（松居友へメール）

Mindanao Children's Library Foundation, Inc.

貧しいからといって、必ずしも不幸とは限らない
私たちの生活の方が、豊かな国の人々の生活よりも
はるかに美しいと感じるときだってある。
けれども、どうにもならないのが、
一日三食たべられないときと、
お金が無くて学校に行けないとき
病気になっても病院に行けないとき・・・

ミンダナオ子ども図書館支援方

1、医療や読み聞かせ活動を支援して下さる方々へ・・・自由寄付（購読料のつもりで気軽に）
直接下記の振替口座にお願いします。寄付をくださった方々には、年五回、３、６、８、１０、１２月に季刊誌『ミンダナオの風』と、時に作成した絵本やＤＶＤをお送りしています。

2，大学生スカラシップ・・年額７００００円　（内容は高校生と同じ）
授業料、下宿代、生活費の高騰がひどく、１万円値上げしました。
旧来の方で値上げ対応が無理な方は、以前の年額で結構ですので、継続お願いします。

3，高校生スカラシップ支援の方へ・・年額６００００円
振り込み用紙の通信欄に「高校スカラシップ」と書いて、振り込んでいただければ、年５回の季刊誌に同封して、本人からの手紙、６月に成績表、８月に写真、１２月に新年カードなどが届きます。新規奨学生の紹介は、随時プロフィールと写真をお届けします。
文通やプレゼントも可能です。訪問の際は、自宅にご案内します。

4，里子支援（小学生）・・・年額４００００円
物価高、教材費、ガソリン代などの高騰がひどく、１万円値上げしました。
旧来の方で値上げ対応が無理な方は、以前の年額で結構ですので、継続お願いします。
振り込み用紙の通信欄に「里子」と書いて、一部振り込んでいただければ、季刊誌に同封して、８月に写真、１２月に本人が描いた新年カードが届きます。
新規里子の紹介は、随時プロフィールと写真をお届けします。訪問の際は自宅にご案内。
プレゼントも可能ですが、僻地のため、返事は半年ほど後になる可能性があります。

5、保育所・下宿小屋建設支援・・・４０万円（資材高騰と建設後の修理代を加えました）
振り込み用紙の通信欄に「保育所」または「下宿小屋」と書いて振り込んでいただければ、年五回季刊誌と同時に、１０月には毎年現状を写した写真をお届けします。
開所式参加や訪問も可能。数年ごとに修復をしていきます。

6，植林環境支援・・・６万円（ゴムの木６００本、１ヘクタール、現地作業代を加えました）
洪水対策と先住民族が土地を手放さないようにするための、自立支援です。

7、古着等の物資支援・・・郵送およびフィリピン宅配フォーレックスが便利です。
Forex フリーダイアル：0120-77-3583,3584

詳しくはウエッブサイト参照「検索：ミンダナオ子ども図書館」
http://home.att.ne.jp/grape/MindanaoCL/mindanews.htm

ゆうちょ振り込み口座　00100-0-18057：加入者名　『ミンダナオ子ども図書館』
（インターネットバンキングも可能です）■銀行名　ゆうちょ銀行　■金融機関コード　9900
■店番　019　■預金種目　当座　■店名　〇一九 店（ゼロイチキユウ店）　■口座番号　0018057

スカラシップ・里親に関する質問、または現地訪問その他に関する問合せは、メールが最適です

mcl.v.staff@gmail.com（日本人現地スタッフ）
電話番号：080－4423－2998（日本および現地転送・松居友）
現地住所：Mindanao Children's Library Foundation, Inc.
Brgy. Manongol Kidapawan City North Cotabato 9400 Philippines